

# 昆虫分類学若手懇談会ニュース

No. 99 (27. ii, 2024)

## 目次

|  |   |
|--|---|
| 事務局体制 .....                                  | 1 |
| 会計報告 .....                                   | 2 |
| 2022 年度総会の決議内容 .....                         | 2 |
| 2023 年度総会について .....                          | 2 |
| 2022 年度若手懇シンポジウム（日本昆虫学会小集会）のご報告 .....        | 3 |
| 2023 年度 9 月若手懇シンポジウム（日本昆虫学会小集会）のご報告 .....    | 3 |
| 2023 年度 3 月若手懇シンポジウム（昆虫学会・応動昆合同大会小集会）のご案内 .. | 5 |
| 幹事挨拶 .....                                   | 6 |
| 訃報 .....                                     | 6 |
| 会員異動 .....                                   | 7 |
| お知らせ .....                                   | 7 |

## 事務局体制

2023 年度も九州大学昆虫学教室が事務局を引き継ぎます。新しい事務局体制は以下の通りです。2023 年度から幹事の補佐役として副幹事を、全体の補佐として庶務を導入しています。

幹事：野崎翼（のざき つばさ）

副幹事：鈴木信也（すずき しんや）

会計担当：橋爪拓斗（はしづめ たくと）

ホームページ担当：林幸希（はやし こうき）、瀬島勇飛（せしま ゆうひ）

編集担当（代表）：朴鎮亨（ぱく ちんよん）

編集担当：中村涼（なかむら りょう）、富永豪太（とみなが ごうた）、佐藤勇哉（さとう ゆうや）、上原友太郎（うえはら ゆうたろう）

庶務：井上修吾（いのうえ しゅうご）、荒島弾（あらしま はずむ）、鈴木佑弥（すずき ゆうや）、外村俊輔（とむら しゅんすけ）、嶋本習介（しまもと しゅうすけ）

## 会計報告

前回の22年9月の総会で前期分の予算案をすでに承認いただいておりますが、年度を通しての決算報告を改めていたします。次の総会(2024年3月)での承認事項となります。

2022年度決算(2022年4月1日-2023年3月31日) (円)

|              | 収入      | 支出     | 次年度繰越金  |
|--------------|---------|--------|---------|
| 前年度繰越金       | 460,133 |        |         |
| ニュース発送経費     |         | 5,722  |         |
| 昆虫学会小集会講演招聘費 |         | 10,000 |         |
| 配信機材購入経費     |         | 2,899  |         |
| 事務・雑務        |         | 330    |         |
| 計            | 460,133 | 23,871 | 436,262 |

## 2022年度総会の決議内容

2022年9月に昆虫学会にて開催されました本会総会の内容をお知らせいたします。

### 【1. 若手懇ニュース及び会誌の完全電子化への移行】

2020年度決議により、会誌の主体を電子化して新たに発行された会誌を電子メールにてPDF形式で配布しておりました。メールアドレスにて電子メールが届けられない会員の方については、ご登録住所へ紙媒体の会誌を引き続き送付しておりました。また、印刷・発送にかかる金額・作業は少なからず負担となっていたこと、会員の方の多くが電子メールを使用していることを理由として、本会会誌を2024年度以降、完全に電子化することを提案し、総会にて承認されました。

## 2023年度総会について

例年、総会は9月に行われる日本昆虫学会において本会主催の小集会と共同開催しておりましたが、今年度は運営側の諸事情により、年度末の昆虫学会・応動昆合同大会に合わせて行う予定となっております。総会・会計決算の承認事項に関しては3月31日に行われる下記小集会にて開催予定です。総会の開催は本会ホームページ(<https://wakatekon.jimdofree.com/>)およびメールでも通知いたします。

### 【開催日程】

日本昆虫学会第84回大会・第68回日本応用動物昆虫学会大会 合同大会  
(2024年3月28~31日: 仙台国際センター)

日時：3月31日 17:00～17:15

場所：仙台国際センター 白樫1：C会場（若手懇シンポジウム会場）

## 2022年度若手懇シンポジウム（日本昆虫学会小集会）のご報告

2022年9月に、信州大学で開催された日本昆虫学会第82回大会にて小集会を開催いたしました。現地での開催に加えて、Zoomを用いたオンラインでの配信も行われました。

新型コロナウイルス流行の長期化や世界情勢の不安定化、ABS等によって海外での採集や昆虫標本の取り扱いが難しくなり、国内の昆虫標本に対する需要が相対的に高まっています。そこで、分類学者にとって扱うことが必須の資料である標本のうち、国内の標本を活用する、あるいは自身の標本を活用してもらうために、行うべきことや実際の活用例を知り、自身を含めた研究者に還元、貢献していくことを目的として、収蔵機関において様々な手法で標本を活用されている3名の講演者の方々に、利用され得る標本の管理方法、標本調査の手法、標本のDNA情報の利用についてお話しいただきました。

・大島 康宏（三重県総合博物館）「地域博物館における昆虫資料の収集と管理 -三重県総合博物館の事例から-」

・渡辺 恭平（神奈川県立 生命の星・地球博物館）「決して小さくない！標本調査の持つ意義」

・中濱 直之（兵庫県立大学/兵庫県立博物館）「Museomicsのすすめ-標本からDNA情報を取り出し活用する-」

参加者の皆様からは、標本を実際に管理、活用されている方からの事例を聞くことができ、今後の標本作成や調査における有意義な知見を得られた、標本を通じた人々や機関との繋がり的重要性を学んだ、といった意見をいただくことができました。これから分類学を始める方々や、現役で研究している若手の方々にとって、標本の活用方法と意義を学ぶことができるシンポジウムになったと思います。

## 2023年度9月若手懇シンポジウム（日本昆虫学会小集会）のご報告

2023年9月に佐賀大学で開催された日本昆虫学会第83回大会にて小集会を開催いたしました。

分類学にも応用できる様々なDNA解析手法が開発されている昨今の状況では、分類学者にとっては、自身の研究テーマに適した手法や技術を選択することが重要な課題となっています。そこで、若手分類学者が解析の概観をつかみ、分子情報を分類学へ活用することについての考えを深めることを目的として、分類学的研究に分子情報を活用されている3名の講演者の方々に、自身の研究における体験談を含む分子系統解析の基礎、分類学への応用をお話しいただきました。

参加者の皆様からは、実際の事例が多く紹介されていて参考になった、今後に活かせる知識を得ることができたなど、好評をいただくことができました。また同大会では、「昆虫の集団ゲノミクスへの招待」という公募シンポジウムもあり、合わせて参加した方々にとっては昨今の DNA 解析手法についてより深く、相補的に理解する機会になったのではないのでしょうか。

以下、小集会の概要とご講演の要旨を転載いたします。

【開催日程】日本昆虫学会第 83 回大会 (2023 年 9 月 16~18 日 : 佐賀大学本庄キャンパス)  
小集会タイトル : 『昆虫分類若手懇談会シンポジウム「分類学における分子情報の活用」』  
日時 : 9 月 17 日 (日) 17 : 30~19 : 30

開催方法 : 対面 (A 会場)

【講演者】(以下敬称略) :

- ・長太 伸章 (国立科学博物館人類研究部) 「分子実験・系統解析における基礎的な手法」
- ・柿添 翔太郎 (国立科学博物館 標本資料センター) 「分子系統解析を高次分類体系の改定に活用する-野外のサンプリングから国際的なデータベースの活用まで-」
- ・澤田 直人 (京都大学 大学院理学研究科 動物系統学学科) 「一塩基多型データを活用した種分類 : 琵琶湖の淡水貝類を題材に」

【講演要旨】

「分子実験・系統解析における基礎的な手法」

長太 伸章 (国立科学博物館人類研究部)

20 世紀後半に誕生した DNA 解析技術は今では分子系統解析や集団遺伝解析をはじめとし、機能遺伝子探索やゲノム解析、環境 DNA 解析など、昆虫学でも様々な分野で重要な解析方法となっている。分類学においても分子系統解析は重要なツールになっており、DNA バーコーディングは広範囲に使える同定ツールとして普及が進んでいる。このような DNA 解析の発展に伴って多くの解析法・実験法が開発・普及されており、一口に DNA の解析と言ってもその手法は様々で留意点などが従来とは大きく異なっている。そこで本発表では発表者が現在行っている実際の解析をもとに、サンプル収集から分枝系統樹推定までの分子系統解析における基本的な流れの一つとその手法、そして留意すべき点について紹介する。また、従来のサンガーシーケンサーを使用した解析に加え、現在では網羅的解析に主眼が置かれた超並列・高速の次世代シーケンサー (NGS) を使用した解析が急速に普及しており、今後分類学者も共同研究棟でかかわることが多いと考えられる。そこで、NGS での解析を見越した場合の留意点も紹介する。

「分子系統解析を高次分類体系の改定に活用する-野外サンプリングから国際的なデータベースの活用まで-」

柿添 翔太郎（国立科学博物館 標本資料センター）

高次分類体系をどのように構築するかは、分類学者を悩ませる大きな課題であり、同時に非常に魅力的なテーマでもある。かつては形態の形質状態に基づき系統推定が行われてきたが、近年は DNA 配列情報が系統推定を行う上での主要な情報源となっている。DNA 配列情報に基づく解析手法の進展により、例えば被子植物における APG 体系のように分類群を問わず様々な高次分類体系の変更が行われてきた。

本発表では、分子系統解析を用いて高次分類体系の改定に挑戦したい学部生や大学院生を主なターゲットとして、演者が取り組んできたマグソコガネ亜科（甲虫目：コガネムシ科）の系統研究を主な題材にしながら、野外でのサンプリング時の注意点、国内外の研究者との協力体制の構築、公的データベースの活用といったトピックに関して具体的に取り組んでいる手法を紹介する。

「一塩基多型データを活用した種分類：琵琶湖の淡水貝類を題材に」

澤田 直人（京都大学 大学院理学研究科 動物系統学学科）

一塩基多型（SNP）データを用いたゲノム解析は、ごく近縁な種・集団間の遺伝的関係の把握に効果的です。琵琶湖で適応放散したカワニナ属淡水貝類は、その遺伝的多様性の低さから従来の遺伝解析手法では種間の遺伝的関係が掴めず、SNP データが極めて有用な分類群の一つです。本発表では、カワニナ属を対象とした集団遺伝解析と分類改定を題材に、SNP データの種分類への有用性と問題点について紹介します。

## 2023 年度 3 月若手懇シンポジウム（日本昆虫学会小集会）のご案内

若手が分類学のような基礎研究に従事する中で求められる役割の 1 つに、その専門的な知識を活かした各地域の生物相の解明があります。今後これを行っていくうえで、若手が研究者として生物相解明にどのように関わっていくことが望ましいかについて考え、意見交換する機会をもつことが望ましいと考えられます。そこで本会では、①分類学者が地域の生物相解明や教育に携わった例、②地域の昆虫相調査を行う人が研究者に求めることの 2 つのサブテーマを設定し、日本昆虫学会第 84 回大会・第 68 回日本応用動物昆虫学会大会合同大会の小集会において、**昆虫分類若手懇談会シンポジウム「地域昆虫相解明のため**

に研究者には何ができるのか」(世話人：鈴木信也)を開催いたします。以下の方々にご講演いただく予定です(敬称略)。

- ・相馬純(弘前大・白神センター)「地域から世界へ：在野研究者との協力関係が分類学と教育にもたらす貢献」
- ・星野光之介(長岡市立科学博物館)「昆虫相解明に携わって見えてきたこと ～地方博物館学芸員の立場から～」

#### 【開催日程】

日本昆虫学会第84回大会・第68回日本応用動物昆虫学会大会 合同大会

(2024年3月28～31日：仙台国際センター)

日時：3月31日 17:15～18:30

場所：仙台国際センター白樺1：C会場(若手懇シンポジウム会場)

大会ホームページからプログラムの詳細を確認できますのでご参照ください。

<https://confit.atlas.jp/guide/event/odokon68/static/program>

参加される方、特に若手の分類学者が、今後地域の生物相解明に携わる上で貴重なお話を伺えると思います。

## 幹事挨拶

458 野崎 翼(のざき つばさ：九州大・生資環・昆虫・D1)

今年度より、本会の幹事を務めさせていただきます野崎 翼と申します。私は九州大学昆虫学教室に所属し、甲虫目ハネカクシ科ヒゲブトハネカクシ亜科の分類と系統の研究を行っています。博士課程では修士課程に引き続き、ケアリ属に社会寄生するヒラタアリヤドリ属とその近縁属の分類と系統の研究を行っています。

若手懇は非常に歴史のある会です。学生をはじめとした若手研究者を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。より現在の若手世代や需要にあった活動をして行けるよう、取り組んでいきたいと考えています。

本会の運営にあたり、会員の皆様には多くの面でご助力頂くことがあると思います。引き続き本会をよろしくお願い致します。

## 訃報

本会会員の安富和男さん(会員番号76)が逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 会員異動

### <新入会員>

- 470 山田量崇
- 471 朴鎮亨
- 472 荒島弾
- 473 佐藤勇哉
- 474 上原友太郎
- 475 中村涼
- 476 林幸希
- 477 瀬島勇飛
- 478 富永豪太
- 479 久野未希
- 480 江口一馬
- 481 青井光太郎

### <退会>

- 76 安富和男
- 238 安藤寿男
- 453 奥尉平

会員数：266名

## お知らせ

ご住所・ご所属やメールアドレスの変更をされた方は、事務局メールアドレス [wakatekon@yahoo.co.jp](mailto:wakatekon@yahoo.co.jp) までお伝えいただきますよう、よろしくお願いたします。また、会員の方で本誌が届いていない方をご存じでしたら、本会までのご連絡にご協力のほどよろしくお願いたします。

また、2022年度総会の決議内容にもとづき、2024年度以降、本会会誌である「昆虫分類学若手懇談会ニュース」は完全に電子化されます。メールアドレスのみでの送付となり、郵送での送付は今後行われませんのでご注意ください。

昆虫分類学若手懇談会ニュース No. 99

発行日：2024年2月27日

編集・発行：九州大学農学部昆虫学教室

昆虫分類学若手懇談会事務局

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744 ウエスト5号館523号

電話：092-802-4573

事務局 E-mail: [wakatekon@yahoo.co.jp](mailto:wakatekon@yahoo.co.jp)

年会費：無料